

## 地名を歩く

## 五十八 長地



夫婦岩(写真上)、早川代官の石碑(右上)、長地(右下)

「長地」は成羽町にある字地名で、北には宇治町穴田や成羽町中野、西には成羽町布寄や成羽川を隔てて備中町平川が、東には成羽町小泉や羽山が、南には備中町布瀬が位置しています。地内は、長地前、長地後などの地区に分かれていて、中世代に形成されたと言われる隆起準平原の起伏の小さい台地状になった吉備高原上にあります。この標高三五〇メートル、五〇〇メートルの台地は、北の阿哲台に続く成羽台石灰岩地帯となっていて、「中村石灰岩」といわれる地域にあたります。

「長地」地区から西に続く木之村地区の高さ三五〇メートル、四〇〇メートル等、高線より下の石灰岩の谷壁斜面は下刻作用の激しいV字谷の成羽川に落ち込んでいて、眼下に見下ろす断崖には、二つの奇岩がそびえていて、夫婦岩と呼ばれ、高さ一〇メートル(夫岩と二メートル(婦岩)の見事な石灰岩の柱が展望できます。言い伝えによると、この夫婦岩は鬼神がつくったものだといひ、「木之村」の地名は「鬼の村」から来ていると伝えられています。人々はここに双石山国司神社をまつり、この二つの岩を陰陽石に見立て、男女対の伝承を持つ岩としてまつっています。子授け、安産、五穀豊穡を願う祈願する信仰だったことが伺えるのです。「長地」から「木之村」にかけてはカルスト地形

が広がり、ほとんどの谷や窪はドリーネ(すり鉢状の溶食窪地)やウバーレ(ドリーネ群の連合)状の窪地で、畑にも白い石灰岩のカレンフェルド(石塔原)が見られる地域となっています。

「長地」は江戸時代から明治二二年(一八八九)までは「長地村」でした。毛利の支配から慶長五年(一六〇〇)幕府領、寛永の末頃(一六四一〜四三)の村高二五六石余り、領主小川藤左衛門(「備中集成志」とあり、また、正保二・三年(一六四五・六)頃の「正保郷帳」も同じ石高をあげ、池田氏から水谷氏時代の松山藩領でした。その後の元禄六年(一六九三)〜明治四年(一八七二)までの一七八年間は水谷一族の旗本水谷勝時の布賀知行所の支配となり幕末に至っています。「備中村鑑」には当時の石高三七一石余りとして長屋村、相坂村、長地村を一緒にあげ、長地村年寄 渡辺平三郎を記録しています。

幕末の「天保郷帳」には二八四石余りと長地村の石高をあげています。

「長地」には、長地城といわれる連郭式の山城跡があります。城主は赤木弾正景忠と同丹波久忠だったといわれ、子孫は雲州にて相続した(「川上郡誌」といわれています)がよく分かっています。

「長地」の西に続く木之村には、天明七年(一七八七)大飢饉の頃、美作国久世代官となり、倉敷・笠岡の代官など備中地方の代官を務めた名代官早川八郎左衛門(正紀)を顕彰して頌徳碑を建て、偉業をたたえるために建立した碑が残っていて、地域の人は今でも盆になると「早川踊り」を踊り続けて伝えているのです。

神社には諏訪神社があります。明治元年(一八六八)一二月、村の作右衛門という人が「村八分」にされ、この神社の宮座の特権を奪われ差別されたという事件がありました。布寄の産土神として、秋祭りには伝統芸能として祭礼衆の「渡り拍子」が受け継がれています。寺院には曹洞宗祐泉寺、同長松院があります。

「長地」は明治二二年に羽根・布寄・小泉・相坂・長地の五村をあわせた中村の大字となり、昭和三〇年より成羽町の大字となりました。

「長地」という地名の「長」の意味は「多くの中で一番上に位置する存在」または「頭」とか「優れている」という意味を表していて、「中心になる村(土地)」とか「旧川上郡の中央にある地域」などの意味を込めてつけられた地名なのです。

## 【お詫びと訂正】

先月号の26ページ「地名を歩く」に誤りがありました。お詫びして訂正します。

(誤) 蔭涼軒目録 → (正) 蔭涼軒日録



## 吉備国際大学公開講座(歴史講座) 「備中・備前・美作の庭園をたずねて」

吉備国際大学では、公開講座を次のとおり開講します。庭園は今日、自己を最も自然に見つめられる空間です。県内の名庭園を訪ね、先人の美意識・生き方のメッセージを受け取り、心豊かな一日をつくりませんか。



- ▷日 時……10月24日(土) 8:30 集合
- ▷講 師……文化財学部教授 臼井洋輔
- ▷行 程……頼久寺〔集合〕 → 衆楽園(津山市) → 片山邸(吉備中央町)〔昼食〕 → 重森三玲記念館・天頼庵(吉備中央町) → 吉備中央町賀陽庁舎(吉備中央町) → 後楽園(岡山市) → 高梁〔到着18:00ごろ〕
- ▷参加費……5,000円(入園料・昼食代を含む)
- ▷定 員……28人
- ▷申込締切……9月30日(水)
- ▷申込方法……下記へ電話でお申し込みください(平日9:00～17:30)。お申し込み後、振込用紙をお送りしますので、参加費をご入金ください。※入金後のキャンセルについては、返金できない場合がありますのでご注意ください。

■問い合わせ・申し込み 吉備国際大学庶務課(☎27404)

### 編集後記

残暑厳しい日が続いています。私事ですが、7月末から8月にかけて、ひどい夏風邪を引いてしまいました。広報紙の制作はもちろん、ほかの業務など一番忙しい時期で、這ってでも務めようと思いましたが、熱がなかなか下がらず、咳も止まらず。仕事に大きな支障が出るどころでしたが、そんなときに支えてくれたのが、同じ課の先

輩であり、仲間たちです。約束していた取材に代わりに行ってもらったり、報告書を作ってもらったり。そうして今月号も何とか完成させることができました。仲間に感謝しながら、自分自身の健康管理不足を反省しています。皆さんも健康には十分ご留意ください。(T・M)

## まちの伝言板

## 有漢のイベント満載



NPO法人夢風車うかん  
副会長 和田直樹さん(48)

「地域住民が一丸となって、まちの活性化に取り組もう」と、さまざまなイベントやボランティア活動をやってきた「NPO法人夢風車うかん」が、今年8月で設立1周年を迎えました。その記念事業として行われるのが「ソーめん大食い大会」。「何か楽しいイベントをしよう」とみんな考えてきました。胃に自信のある人、奮ってご参加ください」と話すのは、副会長の和田さん。「これからも地域に密着した活

動を続けていきたい。9月には風ぐるまフェスタへの出場権をかけた、のど自慢大会も開くので、そちらもぜひ参加してほしいですね」と話します。詳細は次のとおり。

### ◆ソーめん大食い大会

▽日時…8月30日(日) 午前10時  
受付、正午開始  
▽参加費…500円  
※当日参加を受け付け、30人以上の場合は抽選します

### ◆のど自慢大会&フリーマーケット

▽日時…9月13日(日) 午前10時  
▽会場 うかん風のステージ  
(どちらのイベントとも)

■問い合わせ NPO法人夢風車うかん事務局(☎273308)